

二 宮 尊 徳

1787年相模国さがみの（今の神奈川県）に農家の長男として生まれた。小さい時の名を金次郎といった。小さい時からよくはたらき、勉強もした。そして、少しずつ田畑を広げ、まずしかった家をゆたかにした。さらに、藩やまずしい村をよくするため熱心にはたらき、みんなに感しゃされた。みんなが心をつにして、協力してまじめにはたらくなど報徳の考えをみんなに教えた。1856年なくなったが、尊徳の教えは多くの人々にうけつがれた。

◎ てんめい 天明の大ききんの時の人々の生活を調べてみましょう。

今からおよそ200年ほど前、相馬藩はんでは、天候てんこうがよくない年がときどきあり、村は少しずつ荒れていきました。これにおいうちをかけるように、天明の大ききんがおこりました。

この年は、5月まで冷たい雨の日が多く、気温があがらず田植えがおくれてしまいました。さらに、夏になってもわた入れの着物を着るような寒い日が続いねき、稲が育ちませんでした。

このため、米のほか畑の作物もほとんど取れませんでした。人々は、木の実のほか草、根、葉など食べれそうなものは何でも食べました。

しかし、が死したり病気になって死んだりする人々が多く、さらに、よその土地ににげだしたりする人もみられました。



天明のききんの時に死んだ人とむらってたてられた。